

群馬県中高年を対象にした花粉症に関連する 要因についての横断研究

ハシモト ユリ コ オオタニ テツ ヤ コ ヤマ ヒロシ
橋本由利子* 大谷 哲也^{2*} 小山 洋^{2*}
イワサキ モトキ ササザワ ヨシアキ スズ キ ショウスケ
岩崎 基^{3*} 笹澤 吉明^{4*} 鈴木 庄亮^{5*,6*}

目的 花粉症発症には花粉への曝露の他に様々な修飾要因が関わっていると考えられているが、その詳細は未だ十分に明らかにされていない。そこで「花粉症有り」の人の宿主要因を中心に花粉症の修飾要因を広範囲に調べることにした。

方法 1993年に開始した群馬疫学コホート（こもいせ）調査結果およびその第2波として2000年に行った47-77歳の男女住民10,898人の生活と罹病・死亡リスクについての調査結果を利用した。既往歴の「花粉症有り」を目的変数として、その他の基本属性、生活習慣・行動、既往症、職業などの項目を説明変数として、ロジスティック回帰分析によって検討した。この分析では、性・地域・年齢で調整した。

結果 花粉症の既往がある者は全回答者の17.1%であった。「花粉症の既往有り」は男性より女性の方が多く「調整オッズ比（aOR）=1.31, 95%信頼区間（CI）:1.17-1.46」, 村より市の居住者の方が多かった（aOR=1.56, 95% CI:1.39-1.76）。40歳代より70歳代の方が花粉症は著しく少なく（aOR=0.19, 95% CI:0.15-0.24）, 花粉症の最近1年の寛解者は年齢が高くなるにつれ増加した（傾向検定P値<0.001）。

健康面では、「花粉症有り」は、寝つきが悪い・眠りが中断されること、および心臓病・高脂血症・喘息・消化性潰瘍・腰痛・うつ病有りととの間に有意な関連がみられた。糖尿病有りととは逆の関連がみられた。

生活面では、「花粉症有り」は、収入のある仕事をしている、サラリーマンである、仕事で精神的ストレスが多い、間食をよくする、お腹一杯食べる、食事が規則正しい、甘いものをよく食べる、日本酒・ワインを月2,3回飲む、ビール・発泡酒を飲む、焼酎・ウイスキーをほぼ毎日飲む、よく長い距離を歩く、よく運動をする、よく家の掃除をする、芝居・映画・コンサートなどに行く、食料品・衣類などの買い物に行く、結婚経験がある、子どもが問題を抱えている、年収が1,000万円以上であることと有意な関連が見られた。農業従事者、たばこを吸っていること、パチンコやカラオケによく行くこととは有意な逆の関連がみられた。

過去の食生活では30歳代の頃パンを摂取したことと弱い関連がみられた。

結論 花粉症の既往と生活習慣・行動など多くの要因との間に関連性がみられた。花粉症は、老年より比較的若年層に、農村より都市地域に、農業従事者よりサラリーマンに、ストレスの多いことや食べ過ぎあるいは洋風の食生活に、生活水準が高く近代化の進んだ生活により強く関係しているなど、宿主・環境に関する一群の修飾要因とその重みが明らかにされた。

Key words : 花粉症, 生活習慣, 職業, 既往症, 宿主要因, 横断研究

* 東京福祉大学大学院社会福祉学部

^{2*} 群馬大学大学院医学系研究科社会環境医療学講座
生態情報学分野

^{3*} 国立がんセンターがん予防・検診研究センター予
防研究部

^{4*} 琉球大学教育学部生涯健康教育コース

^{5*} 群馬産業保健推進センター

^{6*} NPO 国際エコヘルズ研究会

連絡先：〒372-0831 群馬県伊勢崎市山王町2020-1
東京福祉大学社会福祉学部 橋本由利子